

今月の安全運転管理

雨の日は 安全速度で 事故防ぐ

①雨天時の安全運転指導を徹底しよう。

- 安全速度と車間距離を十分に確保

②異常気象時の危険を回避しよう。

- 気象予測に基づく指導と管理
- 異常気象時の危険回避ノウハウを指導



車間距離を確保し 安全な速度で走行しよう

本格的な雨の季節になりました。運転者には、雨天時における安全運転方法を指導しましょう。

雨天走行時に気をつけたいことのひとつとして、スリップがあります。

雨に濡れた路面では、タイヤのグリップ力が低下するため、晴れた日の感覚で止まろうとしても、すぐに止まることができません。そのため、あわてて急ブレーキを踏むと、スリップしてしまうのです。

そこで、雨天時は晴天時の二倍程度の車間距離を確保するように指導しましょう。

また、スピードを十分に落として走行することで、「急のつく運転は行わないように」をせましましょう。

このほか、朝礼・点呼時等を

利用して、

- ・視界が悪くなるため、安全確認を徹底する

- ・昼間でも外が暗い場合は、ライトを点灯し、自車を目立たせる

- ・傘差し自転車等の動きに注意する

といったアドバイスも実施しましょう。

正確な情報入手に 努めよう

安全運転管理者の基本業務の「異常気象時の安全確保」があります。

近年、集中豪雨（ゲリラ豪雨）により災害が多発していることから、事前準備や対策が必要とされます。

そこで管理者は、天候や道路交通情報をこまめに収集しましょう。そして運転者には、豪雨時は山間部や河岸道路、アンダーパスなどの危険な場

所は迂回させましょう。

具体的な危険回避方法を 指導しよう

◆アンダーパス

アンダーパスは雨水がたまりやすい構造のため、豪雨時には排水できずに冠水することがあります。

近年、アンダーパスで車両が水没するなどの重大な事故が発生していることから、道路が冠水している場合は不用意に通行せず、迂回しましょう。

◆山間部

豪雨になると、山間部の道路は地盤が緩み、崩落の危険性があります。そのため、谷側の路肩部分には近づきすぎないようにしましょう。

また、山側の斜面からは、石や泥の落下や土砂が流れてくるおそれがあるため、すぐにその場から離れましょう。